

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	英語英文学科	夜・通信	5	—	7	12	7	
	国際文化学科	夜・通信		—	16	21	7	
	食物栄養学科	夜・通信		—	33	38	7	
	生活デザイン学科 ファッション専修	夜・通信		24	24	53	7	
	生活デザイン学科 建築・インテリア専修	夜・通信		24	34	63	7	
	生活デザイン学科 ヴィジュアル専修	夜・通信		24	34	63	7	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信	5	—	10	15	7	
	健康栄養学科	夜・通信		—	15	20	7	
	デザイン環境学科	夜・通信		—	42	47	7	
<p>(備考) 令和5年4月より、入学者募集停止：英語英文学科                      学科の名称変更：国際文化学科から国際コミュニケーション学科、                      生活デザイン学科からデザイン環境学科                      ※ 国際コミュニケーション学科、健康栄養学科、デザイン環境学科の2年次の科目については、                      科目担当教員が未定のため、記載なし（基準数の7単位は満たしている）。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバス（大学ホームページにて公開） <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/campus_life/about_class/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/campus_life/about_class/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

※ 学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	岐阜市立女子短期大学運営委員会
役割	<p>岐阜市立女子短期大学学則第1条第7項及び第8項並びに岐阜市立女子短期大学運営委員会規程により、大学の教育及び組織の充実を図り、円滑な大学運営を実現するため、広く意見を求めるために設置した。</p> <p>委員は10人以内とし、その構成は学識経験者2人以上5人以内、本学教職員4人以内、市政関係者1人とし、外部人材2人以上の参画を担保した。</p> <p>協議内容は、①教育課程や学生の進路指導を含む教育及び教員の研究（学問）に関すること②人事・財務を含む大学の運営に関すること③自己・外部の大学の評価に関すること及び④学長が必要と認める事項とした。</p> <p>委員会の意見や評価の結果は大学教育及び運営に反映させるとともにその概要を公表する。</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
池田 哲也 岐阜県立本巣松陽高等学校長	2022. 4. 1 ～2024. 3. 31	
石黒 時紀 公益社団法人岐阜県建築士会 会長	2022. 6. 10 ～2024. 3. 31	
臼井 千里 岐阜県世界青年友の会 事務局長	2022. 4. 1 ～2024. 3. 31	
馬場 美穂 敷島産業株式会社 取締役	2022. 4. 1 ～2024. 3. 31	
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>&lt;授業計画(シラバス)の作成過程&gt;          学内教務事務を担当する教務委員会でシラバスに記載すべき項目を決定し、各科目の担当教員が作成して教務委員会に提出する。シラバスには、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目名、開講学科、担当教員名、単位数、必修/選択区分、科目区分、教員区分</li> <li>・授業目的・到達目標</li> <li>・授業概要(担当教員の実務経験の内容を含む)</li> <li>・授業計画(15回分+試験)</li> <li>・予復習等</li> <li>・評価方法</li> <li>・履修条件</li> <li>・教科書</li> <li>・参考書</li> </ul> <p>を記載する。</p> <p>&lt;授業計画の作成・公表時期&gt;          毎年11月～3月作成、4月公表</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>シラバス(大学ホームページにて公開)</p> <p><a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/campus_life/about_class/#syllabus">https://www.gifu-cwc.ac.jp/campus_life/about_class/#syllabus</a></p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

予め学生に配付しているシラバスに記載の各科目の評価方法に基づき、  
 出席状況  
 受講態度  
 授業への参加姿勢  
 課題・レポート・制作物等提出物  
 授業内小テスト・中間テスト  
 定期試験・追試験・再試験

から授業目的・到達目標への到達度を判断し、科目の成績を合格・不合格に分け、さらに合格を優・良及び可に区分して単位を認定している。

区分	得点	成績評価	G P
合格	100～90 点	A+	4.0
	89～80 点	A	3.0
	79～70 点	B	2.0
	69～60 点	C	1.0
不合格	59 点以下	F	0

合否及び成績は所定の期日までに学生に通知する。なお、学生は成績評価方法との矛盾や明らかな担当教員のミスと思われる結果に対しては、異議申立書を提出することができる。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

各学生の履修科目に基づき、下記算出方法によりG P Aを算出している。

$(4.0) \times [A+] \text{の修得単位数} + (3.0) \times [A] \text{の修得単位数} + (2.0) \times [B] \text{の修得単位数} + (1.0) \times ([C] \text{の修得単位数}) \div \text{履修した総単位数} ([F] \text{を含む})$

\*G P Aは小数点以下第2位未満を四捨五入する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	学則、成績評価基準等に関する規程(大学ホームページにて公開) <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/disclosure/rules/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/disclosure/rules/</a>
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<学位授与の方針>

本学の卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定します。

1. 教育課程の多面的履修を通して、基礎的な学習能力を養うとともに、人間社会と暮らしに対する関心と理解を深め、深い教養と考える力を身につけた学生。
2. 専門分野での体系的学習と、分野を超えて幅広く関心のある科目の学習を通して、現代の多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につけた学生。
3. 「講義」「演習」での学びや、卒業論文等の作成を通して、専門的知識・技能の活用力、批判的思考力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、総合する力を身につけた学生。

なお、各学科のディプロマ・ポリシーは次のとおり

**(英語英文学科)**

以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定し、短期大学士「英語英文学」の学位を授与する。

1. 英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、幅広く深い教養を修得し、異文化や他者に対する細やかな想像力をもつ学生。
2. 実用的な英語運用能力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる能力をもつ学生。

**(国際文化学科)**

以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定し、短期大学士（国際文化学）の学位を授与する。

1. さまざまな文化や社会に関する知識と理解を深め、国際化や多文化共生が進み社会において多様な価値観を許容する力を見つけた学生。
2. 異文化の人々との交流において基盤となる日本文化や日本語の知識と能力、社会生活において必要な情報科学の知識と技能を身につけ、英語に加え中国語または韓国語の語学力を用いて、国際化や多文化共生が進む社会において課題を見つけ、さまざまな文化の背景をもつ人々と協調して、その解決に取り組む姿勢を身につけた学生。

**(食物栄養学科)**

人々の健康の保持・増進や疾病の予防・治療において、栄養のスペシャリストとしてその専門性を活かした業務を行うことができる栄養士の養成を目標としている。

これを実現すべく、本学科が定める栄養士免許取得に必要な全単位数、または所定の卒業単位数を修得した者に、短期大学士（食物栄養学）の学位を授与する。

なお、学位の授与にあっては、以下の点も留意し、「食品・栄養・人体・疾病に関する幅広い知識を身につけ、高い倫理観と責任感をもって行動ができる人物」と認められた者に対して学位を与える。

**(生活デザイン学科)**

広く人間の生活に関連する事物のデザインを追究し、それらを軸とした学生への教育実施によって「ものづくり」と「智慧」を習得した「専門性を有する教養人」「教養を有する専門家」の輩出を目指している。

本学全体の卒業認定方針に加え、学科として以下の方針にもとづいて学生の卒業を認定し、短期大学士（生活デザイン学）の学位を授与する。

1. 各専修が設定した知識や技術の習得目標を達成し、「ものづくり」に関わる能力を身につけている。

2. デザインの思想や意義を理解し、創造的な解決を導き出す「智慧」にもとづいて、社会生活における諸課題に取り組む姿勢を身に付けている。

<卒業要件> (学則第31条及び32条に記載)

卒業のためには、2年以上在学し、教養教育科目15単位以上、専門教育科目48単位以上を習得しなければならない。

<卒業判定>

学長が教授会の意見を聞いて判定する。

令和5年度以降の3学科 (令和5年度は、第2学年在籍なし)

(国際コミュニケーション学科)

国際コミュニケーション学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根ざした実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら、協働してよりよい地域社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野を現代社会、文化交流、英語、東アジア言語の4領域とし、領域を横断しながら学びます。この目標を満たし、各領域の定める力や姿勢を身につけた人材に対し、「短期大学士 (国際コミュニケーション学)」の学位を授与します。

・現代社会領域

地域や世界が抱える諸課題の解決や、地域や世界の持続的な発展のための行動に必要な知識とスキルを身につけ、活用することができる。

・文化交流領域

さまざまな国や地域の文化や価値観に対する知識と、それを尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションの場で中心的な役割を果たすことができる。

・英語領域

世界共通語とされる英語の実践力を身につけ、さまざまな情報や自らの意見を、国際的な場面や地域社会に向けて発信することができる。

・東アジア言語領域

隣国であり人的往来が最も多い中国、韓国の言語や日本語を、国内外でのコミュニケーションのために使用し、観光や外国人支援などの場で中心的な役割を果たすことができる。

(健康栄養学科)

健康栄養学科は、厚生労働大臣から認可を受けた栄養士養成課程であり、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、社会の要請に沿った質の高い栄養士の人材育成を目指します。医療・福祉領域、食環境領域の2領域とし、次に掲げる資質・能力を身につけた人材に対して、「短期大学士 (健康栄養学)」の学位を授与します。

1. 栄養士の役割を理解し、高い倫理観と強い責任感・使命感をもって、行動できる

2. 「健康・栄養・食」に関わる課題に対して、専門的知識および技術をもって、解決方法を探究できる

3. 豊かな人間性をもって、他者と円滑なコミュニケーションができる

4. 栄養の専門家として、生涯にわたり自律的に学び自己研鑽できる

・医療・福祉領域

少子・超高齢社会の現代において、生活習慣病者や要介護者が増加し、同時に国民医療費が増大している。これらの諸問題の解決に必要な知識とスキルを持っている。

・食環境領域

地域の食環境を活かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質 (Q

OL)の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献するための発信力を持っている。

(デザイン環境学科)

デザイン環境学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野をファッション、建築・インテリア、ヴィジュアルの3領域とし、領域を横断しながら学ぶことを教育目標とします。この目標を満たし、各領域の定める具体的資質を身につけた人材に対し、「短期大学士(デザイン環境学)」の学位を授与します。

・ファッション領域

高品質な素材縫製技術による「本物志向」の教育を通して持続可能なファッション文化の実現を目標に、地域の繊維産業と連携しながら素材・製造・販売までの実践的な能力を身につける。

・建築・インテリア領域

自然環境との共生を再認識し、産官学連携による実践的な地域活動に積極的に取り組む中で、持続性のある建築・地域づくりに貢献する。

・ヴィジュアル・情報領域

ビジュアルコミュニケーションを効果的に学修するため、従来の視覚情報について学ぶとともに、現代社会に適した情報科学を学び、創造的な取り組みを実践する。

<卒業要件> (学則第31条及び32条に記載)

卒業のためには、2年以上在学し、教養教育科目15単位以上、専門教育科目48単位以上を習得しなければならない。

<卒業判定>

学長が教授会の意見を聞いて判定する。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

学則、学修規程(大学ホームページにて公開  
<https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/disclosure/rules/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	記入を要しない
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ 自己評価報告書 <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/disclosure/assess/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/disclosure/assess/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ 平成28年度認証評価結果 <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/disclosure/assess_01/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/disclosure/assess_01/</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 英語英文学科
教育研究上の目的 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/</a>
(概要) 英語コミュニケーション能力を身につけ、英語と英米文化に関して理解を深めることで未知なる発想様式に目を開き、国際感覚を養い、国際社会や地域社会で積極的に活躍できる人材の養成。
卒業の認定に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定し、短期大学士「英語英文学」の学位を授与する。 1. 英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、幅広く深い教養を修得し、異文化や他者に対する細やかな想像力をもつ学生。 2. 実用的な英語運用能力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる能力をもつ学生。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 英語英文学科は、英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、幅広く深い教養を修得するとともに高い語学力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる自立した女性を育成することを目指す。 このような理念のもと、英語英文学科は、以下の方針に基づいて教育課程を編成している。これらの充実した指導体制により、きめ細やかで質の高い教育を提供する。 1. 英語によるコミュニケーション力を、英語運用能力とそれを支える幅広く深い教養として位置付け、実用的な英語運用能力を伸ばすための「実用英語」科目と、豊かな教養を身につけるための「英文講読」科目及び「英米関係講義」科目を展開します。 2. 実用的な英語運用能力を伸ばすために必要な要素を、「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」とし、これら 4 技能の力をバランスよく向上させることができるよう、質・量ともに充実した「実用英語」科目を展開します。 3. 幅広く深い教養を修得するために、「英米文学」「英語学」「英語教育学」「現代コミュニケーション学」などの学問を体系的に学ぶことができる「英文講読」科目と「英米関係講義」科目を展開します。 4. 少人数の演習科目、ゼミナール科目など、参加型の科目を数多く設置することにより、自ら考える姿勢を養い、自分の意見を他者にことばによって伝える力を体得します。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 英語英文学科は、英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、幅広く深い教養を修得するとともに高い語学力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる自立した女性を育成することを目指しています。 本学科では、充実した実用英語カリキュラムにより実践的な英語力を身につけることを目標としています。あわせて、英語学や英米文学などの専門科目群を通して、英語という言葉そのものや、その背景にある文化を多面的に学び、深い教養に裏打ちされた英語コミュニケーション能力の習得を目指します。 このような教育目標のもとで、基礎的な英語力を身につけており、英語や英米文化に深い関心があり、自らの可能性を伸ばそうとする意欲に満ちた学生の入学を期待しています。

学部等名 国際文化学科
教育研究上の目的 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/</a>
(概要) 国際化や多文化共生が進む社会で必要となる多様な価値観を許容する力と、コミュニケーションの力を身につけ、さまざまな文化的背景をもつ人々と協調して、創造的に課題に取り組むことができる人材の養成。
卒業の認定に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「短期大学士（国際文化学）」の学位を授与します。 1. さまざまな文化や社会に関する知識と理解を深め、国際化や多文化共生が進む社会において多様な価値観を許容する力を身につけた学生。 2. 異文化の人々との交流において基盤となる日本文化や日本語の知識と能力、社会生活において必要な情報科学の知識と技能を身につけ、英語に加え中国語または韓国語の語学力を用いて、国際化や多文化共生が進む社会において課題を見つけ、さまざまな文化的背景をもつ人々と協調して、その解決に取り組む姿勢を身につけた学生。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 国際化や多文化共生が進む社会で必要となる多様な価値観を許容する力と、コミュニケーションの力を身につけ、さまざまな文化的背景をもつ人々と協調して、創造的に課題に取り組む人の養成を目指しています。そのため、以下のような教育課程を編成しています。 1. 異文化の人々との交流において私たちの基盤となる日本文化や日本語の理解と能力を高める授業、および現代社会での生活において必要な情報科学の理解と技能を高める授業。 2. 国際化する現代で重要な位置を占める英語の能力を高める授業、我が国との交流が深い隣国である中国語、韓国語の基礎を学ぶ授業。 3. 人々の生活の背景となる多様な文化や社会、国際関係に関する知識と理解を深める授業。 4. 自ら課題を見つけ出し、その解決のために自ら調べ、発表する姿勢を養うための授業。 5. 学生各自の関心や将来の進路に則した、実社会への橋渡しとなる授業。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 国際化や多文化共生が進む社会で必要となる多様な価値観を許容する力と、コミュニケーションの力を身につけ、さまざまな文化的背景をもつ人々と協調して、創造的に課題取り組むことができる人材の養成を目指しています。 そのために、異文化の人々との交流において私たちの基盤となる日本文化や日本語理解と能力及び現代社会での生活に必要な情報科学の理解と技能を高めます。また、国際化する現代で重要な位置を占める英語や、我が国との交流が深い隣国の言語である中国語、韓国語を学ぶとともに、人々の生活の背景となる多様な文化や社会、多文化共生に関する知識と理解を深めます。このような学びを通して、多様な価値観を許容し、自ら課題を見つけ、様々な文化的背景をもつ人々と協調して課題に取り組む姿勢を養います。 上記のような本学科の教育目標に共感をもち、積極的かつ主体的にこのような目標取り組んでいける学生の入学を期待しています。

学部等名 食物栄養学科
教育研究上の目的公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/</a>
(概要) 人々の健康維持・増進を図ることを目的に、人体、疾病、食品関係など幅広い分野の専門知識を身につけ、健康な食生活を企画・実践できる人材と、地域社会において栄養指導などに積極的役割を果たせる栄養士の養成。
卒業の認定に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 人々の健康の保持・増進や疾病の予防・治療において、栄養のスペシャリストとしてその専門性を活かした業務を行うことができる栄養士の養成を目標にしている。これを実現すべく、本学科が定める栄養士免許取得に必要な全単位数、または所定の卒業単位数を修得した者に、短期大学士（食物栄養学）の学位を授与する。 なお、学位の授与にあつては、以下の点も留意し、「食品・栄養・人体・疾病に関する幅広い知識を身につけ、高い倫理観と責任感をもって行動ができる人物」と認められた者に対して学位を与える。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 食物栄養学科は、厚生労働大臣指定の栄養士養成施設であり、法令に沿ったカリキュラム編成のもと栄養士の資格を取得するための授業科目を展開する。 また、本学科独自の科目を設けて、基礎教育科目や専門科目の強化・充実を図るとともに、栄養士としての職業意識を育成するための教育を行う。 1. 1年次前期には、本学科独自の基礎教育科目として、「基礎実験化学」を開講し、高等学校において化学の未履修者を対象にした基礎教育を行います。 2. 1年次から2年次までに、本学科独自の専門科目として、「老年学」、「病態病理学」、「食品微生物学」、「食品品質管理論」、「食品流通論」、「栄養士特論」、「カウンセリング論」の7科目を開講し、管理栄養士に必要な知識も一部先行的に学べる教育を行います。 3. とくに、1年次後期には、現役で活躍している管理栄養士・栄養士を講師陣として迎え、オムニバス形式の「栄養士特論」を開講し、栄養士としての職業意識の育成を行います。 4. 2年次には、少人数教育による卒業研究を行い、栄養士に必要とされる高度な専門的知識・技能を習得させるとともに、協調性や対話力など社会性を身につけさせるための教育を行います。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 食物栄養学科は、栄養や食生活の面から健康を維持・増進させることだけでなく、人体の構造と機能、食品と衛生、各種疾病の予防や食事療法、栄養の指導、給食の運営に至るまでの幅広くきわめて重要な分野を学びます。本学で高度な栄養教育を受け、優秀な栄養士として地域社会において積極的役割を果たせる人材、健康な食生活を企画・実践できる人材を養成します。 栄養士には、高度な専門知識・技能のほか、協調性やコミュニケーション力など総合的な能力が必要とされます。本学は、それらを徹底した少人数教育により指導しています。 このような教育環境の中で「食」と「健康」のスペシャリストを目指し、社会のために役立ちたいという強い意志と大きな夢を抱いている学生の入学を期待しています。

学部等名 生活デザイン学科
教育研究上の目的公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/</a>
(概要) ファッション、建築・インテリア、グラフィックなどの分野において、素材選定から設計、制作に至るデザインの専門知識や技能を身につけ、人々の生活環境の向上に活躍できる人材の養成。
卒業の認定に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 広く人間の生活に関連する事物のデザインを追究し、それらを軸とした学生への教育実施によって「ものづくり」と「智慧」を習得した「専門性を有する教養人」「教養を有する専門家」の輩出を目指している。 本学全体の卒業認定方針に加え、学科として以下の方針にもとづいて学生の卒業を認定し、短期大学士（生活デザイン学）の学位を授与する。 1. 各専修が設定した知識や技術の習得目標を達成し、「ものづくり」に関わる能力を身につけている。 2. デザインの思想や意義を理解し、創造的な解決を導き出す「智慧」にもとづいて、社会生活における諸課題に取り組む姿勢を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 生活デザイン学科では、広く人間の生活に関連する事物のデザインを追究し、それらの学びを通して「ものづくり」に関わる専門能力と、社会生活における諸課題を創造的に解決するための「智慧」の習得を目指している。このような目標を実現するため、本学科では以下の方針にもとづいて専門教育科目の教育課程を編成し、実施する。 1. デザイン活動全般において必要不可欠な能力を習得するための「基礎科目」を設定し、専門性獲得のための基盤を構築する。 2. 専修固有の知識と技術を体系的に身につけるための「専修科目」を設定し、専門的で実践的な能力を習得する。 3. 各専修の連関について理解を深め、より広い知見を得るための「展開科目」を設定し、知識と技術を総合的に活用する能力を習得する。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 生活デザインは、人間が生活している空間と、それに関連する事物のデザインを追究する学科です。ファッション専修と建築・インテリア専修、ヴィジュアル専修から構成されています。我々が考えるデザインとは「ものづくり」に関わる計画や意匠だけでなく、人間が生きていく上で必要なデザインの思考、智慧・哲学でもあります。本学科では「ものづくり」と「智慧」を習得した「専門性を有する教養人」「教養を有する専門家」の輩出を目指します。 本学科では、このような教育目標を理解した上で、基礎的な学力・論理的な思考力を有するとともに、生活デザイン学科で学びたいという強い意志を持っている人の入学を望んでいます。この学びに対する前向きな姿勢が、専門的な知識・技術を修得しようという目的意識の向上につながっていきます。旺盛な意欲と若々しい感性に満ちた学生の入学を期待しています。

<p>学部等名 国際コミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的 公表方法：本学ホームページ  <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/</a></p>
<p>(概要)          グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根差した実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら協働して地域の魅力を高め、よりよい地域・社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の養成。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 公表方法：本学ホームページ  <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a></p>
<p>(概要)          国際コミュニケーション学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根ざした実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら、協働してよりよい地域社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野を現代社会、文化交流、英語、東アジア言語の4領域とし、領域を横断しながら学びます。この目標を満たし、各領域の定める力や姿勢を身につけた人材に対し、「短期大学士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会領域              地域や世界が抱える諸課題の解決や、地域や世界の持続的な発展のための行動に必要な知識とスキルを身につけ、活用することができる。</li> <li>・文化交流領域              さまざまな国や地域の文化や価値観に対する知識と、それを尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションの場で中心的な役割を果たすことができる。</li> <li>・英語領域              世界共通語とされる英語の実践力を身につけ、さまざまな情報や自らの意見を、国際的な場面や地域社会に向けて発信することができる。</li> <li>・東アジア言語領域              隣国であり人的往来が最も多い中国、韓国の言語や日本語を、国内外でのコミュニケーションのために使用し、観光や外国人支援などの場で中心的な役割を果たすことができる。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ホームページ  <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a></p>
<p>(概要)          国際コミュニケーション学科では、本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、全学科共通の教養教育科目と、本学科での専門教育科目によってカリキュラムを構成しています。専門教育科目は領域共通科目と、各領域専門科目により構成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門教育科目は、段階的に知識や実践力を身につけることができるよう、年次や学期が進むにつれて発展的な内容になるように構成されています。</li> <li>2. 領域共通科目では、各領域での学びを概観するための領域入門科目と、すべての領域に共通して、国際社会や地域社会の課題に取り組むために必要となる知識や実践力を身につけるための科目を展開します。</li> <li>3. 各領域専門科目には、ディプロマ・ポリシーに掲げる4つの領域（現代社会、文化交流、英語、東アジア言語）の知識や実践力を身につけるための科目を展開します。学生は自らの目的に沿って、これらの領域のいずれかに所属し、他の領域の科目も履修しながら、国際社会や地域社会の発展や問題解決に資する力を身につけていきます。</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ホームページ  <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a></p>
<p>(概要)          さまざまな文化的背景をもった人々と協働し、地域と世界のつながりを意識しながらその持続的な発展のために行動する意欲をもった者の入学を求めています。日本を含むさまざまな国や地域の社会・文化について深く学ぶ意欲、コミュニケーションの手段としての英語や中国語・韓国語の習得に対する意欲をもった学生を歓迎します。</p>

学部等名 健康栄養学科
教育研究上の目的公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/</a>
(概要) 少子・超高齢社会の現代における諸問題の解決に必要な知識とスキルを身につけ、地域の食環境を生かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献できる栄養士の養成。
卒業の認定に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 健康栄養学科は、厚生労働大臣から認可を受けた栄養士養成課程であり、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、社会の要請に沿った質の高い栄養士の人材育成を目指します。医療・福祉領域、食環境領域の2領域とし、次に掲げる資質・能力を身につけた人材に対して、「短期大学士（健康栄養学）」の学位を授与します。 1. 栄養士の役割を理解し、高い倫理観と強い責任感・使命感をもって、行動できる 2. 「健康・栄養・食」に関わる課題に対して、専門的知識および技術をもって、解決方法を探究できる 3. 豊かな人間性をもって、他者と円滑なコミュニケーションができる 4. 栄養の専門家として、生涯にわたり自律的に学び自己研鑽できる ・医療・福祉領域 少子・超高齢社会の現代において、生活習慣病者や要介護者が増加し、同時に国民医療費が増大している。これらの諸問題の解決に必要な知識とスキルを持っている。 ・食環境領域 地域の食環境を活かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献するための発信力を持っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 健康栄養学科では、本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、栄養士養成課程の法令に定められた教養教育科目と専門科目を基本にカリキュラムを構成しています。医療・福祉分野に必要な知識と技術を身につけ、病院・福祉施設での栄養改善、疾病の治療に貢献できる医療・福祉領域と、健康と食をつなぐ食品について幅広く学び、食に関連する多彩な地域活動を通して実践力を養う食環境領域の2領域があります。1年生の後期から、医療・福祉領域と食環境領域に分かれて修学します。 1. 1年後期から分かれる領域のために、前期に、栄養士の仕事内容等について学べる「専門基礎演習」を開講し、学生が自ら領域を選択できるように配慮します。 2. 栄養士に必要な課題解決能力やコミュニケーション能力、協調性を身につけます。前期・後期を通して、「栄養士実習」を開講し、さらなる自己研鑽を積む機会を設けます。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 栄養士免許取得を目指す者を受け入れ、その者に対して栄養士になるための教育を施すことを基本方針としています。栄養士は食と栄養の専門家として専門性を発揮し、国民の栄養改善、健康増進、疾病予防など重要な役割を担い、国民の医療費削減に貢献することが期待されています。「健康・栄養・食」に関わる諸問題に関心がある者の入学を求めています。将来、栄養士となり、人々の健康・医療・福祉のために貢献したい強い意志を持っている学生を歓迎します。

学部等名 デザイン環境学科
教育研究上の目的公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/</a>
(概要) 持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の養成。
卒業の認定に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) デザイン環境学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野をファッション、建築・インテリア、ヴィジュアルの3領域とし、領域を横断しながら学ぶことを教育目標とします。この目標を満たし、各領域の定める具体的資質を身につけた人材に対し、「短期大学士（デザイン環境学）」の学位を授与します。 ・ファッション領域 高品質な素材縫製技術による「本物志向」の教育を通して持続可能なファッション文化の実現を目標に、地域の繊維産業と連携しながら素材・製造・販売までの実践的な能力を身につける。 ・建築・インテリア領域 自然環境との共生を再認識し、産官学連携による実践的な地域活動に積極的に取り組む中で、持続性のある建築・地域づくりに貢献する。 ・ヴィジュアル・情報領域 ビジュアルコミュニケーションを効果的に学修するため、従来の視覚情報について学ぶとともに、現代社会に適した情報科学を学び、創造的な取り組みを実践する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) デザイン環境学科では、本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、全学科共通の教養教育科目と、本学科での専門教育科目によってカリキュラムを構成しています。1年次前期は学科全体に共通する領域共通教育を行い、1年次後期から専門領域に特化した領域専門教育へ移行します。また以下の方針に基づいて領域共通教育と領域専門教育の課程を編成・実施します。 1. デザイン全般において必要不可欠な能力を養う「基礎科目」と、各領域の内容を見渡すことができる知識を習得する「領域基礎科目」を設定し、実践的な地域活動を通し、創造力や思考力を養います。 2. 領域固有の知識と技術を体系的に身につける「領域科目」を設定し、各領域では専門分野毎に体系的に能力・技術を身につけることができる科目構成とします。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/</a>
(概要) 生活に関わる必要かつ重要なデザインの発想および提案を基盤とした教育を行います。持続可能な社会の実現において、様々な問題を解決するために、デザインの中でも、ファッション、建築・インテリア、ヴィジュアル・情報の分野に関する知識・能力を身につけて社会に貢献したいという強い意志を持った者の入学を求めています。地域との連携による実践的な取り組みに積極的に参画する意欲をもった学生を歓迎します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ（大学概要 沿革・組織） <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/history/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/history/</a>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
国際コミュニケーション学科	—	4人	4人	3人	人	1人	12人
健康栄養学科	—	3人	2人	4人	人	3人	12人
デザイン環境学科	—	1人	4人	3人	1人	人	9人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
人				37人			37人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ、研究紀要、リポジトリに掲載 <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/education_research/activities/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/education_research/activities/</a> <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/tosyo/kiyo/index.html">https://www.gifu-cwc.ac.jp/tosyo/kiyo/index.html</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教授会に置かれた委員会において、FD研修計画を立て、少なくとも1年に1回は全教員を対象としたFD研修を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
英語英文学科	—人	—人	%	50人	29人	58%	人	人
国際文化学科	—人	—人	%	60人	47人	78%	人	人
食物栄養学科	—人	—人	%	60人	60人	100%	人	人
生活デザイン学科	—人	—人	%	60人	72人	120%	人	人
国際コミュニケーション学科	90人	64人	71%	90人	64人	71%	人	人
健康栄養学科	50人	43人	86%	50人	43人	86%	人	人
デザイン環境学科	60人	59人	98%	60人	59人	98%	人	人
合計	200人	166人	83%	430人	374人	87%	人	人
（備考）令和5年4月より、学科の名称変更：国際文化学科から国際コミュニケーション学科 生活デザイン学科からデザイン環境学科 入学者募集停止：英語英文学科								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
英語英文学科	35人 (100%)	16人 (45.7%)	18人 (51.4%)	1人 (2.9%)
国際文化学科	37人 (100%)	6人 (16.2%)	25人 (67.6%)	6人 (16.2%)
食物栄養学科	37人 (100%)	1人 (2.7%)	35人 (94.6%)	1人 (2.7%)
生活デザイン 学科	40人 (100%)	4人 (10.0%)	34人 (85.0%)	2人 (5.0%)
合計	149人 (100%)	27人 (18.1%)	112人 (75.2%)	10人 (6.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 英語英文：(進学)三重大学、都留文科大学 (就職) 岐阜県庁、岐阜日産自動車、全日本空輸 国際文化：(進学)岐阜大学、南山大学 (就職) MTK、高山グリーンホテル、パナソニックエレクトリックワークス 食物栄養：(進学)岐阜女子大学 (就職) LEOC、日清医療食品、メフォス東日本 生活デザイン：(進学)帝京大学、大手前大学 (就職) オーツカ、住友林業ホームエンジニアリング、イージェワークス (備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
英語英文学科	37人 (100%)	34人 (91.9%)	3人 (8.1%)	0人 (%)	0人 (%)
国際文化学科	43人 (100%)	37人 (86.0%)	4人 (9.3%)	2人 (4.7%)	0人 (%)
食物栄養学科	40人 (100%)	37人 (92.5%)	3人 (7.5%)	0人 (%)	0人 (%)
生活デザイン 学科	45人 (100%)	38人 (84.4%)	3人 (6.7%)	4人 (8.9%)	0人 (%)
合計	165人 (100%)	146人 (88.5%)	13人 (7.9%)	6人 (3.6%)	0人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

学内教務事務を担当する教務委員会でシラバスに記載すべき項目を決定し、各科目の担当教員が作成して教務委員会に提出する。シラバスには、

- ・科目名、開講学科、担当教員名、単位数、必修／選択区分、科目区分、教員区分
- ・授業目的・到達目標
- ・授業概要（担当教員の実務経験の内容を含む）
- ・授業計画（15回分＋試験）
- ・予復習等
- ・評価方法
- ・履修条件
- ・教科書
- ・参考書

を記載し、ホームページに掲載するほか、冊子を学生に配付して周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

◆学習の成果に係る評価基準

予め学生に配付しているシラバスに記載の各科目の評価方法に基づき、

出席状況

受講態度

授業への参加姿勢

課題・レポート・制作物等提出物

授業内小テスト・中間テスト

定期試験・追試験・再試験

から授業目的・到達目標への到達度を判断し、科目の成績を合格・不合格に分け、さらに合格をA+, A, B及びCに区分して単位を認定している。

区分	得点	成績評価	G P
合格	100～90点	A+	4.0
	89～80点	A	3.0
	79～70点	B	2.0
	69～60点	C	1.0
不合格	59点以下	F	0

合否及び成績は所定の期日までに学生に通知する。なお、学生は成績評価方法との矛盾や明らかな担当教員のミスと思われる結果に対しては、異議申立書を提出することができる。

◆卒業の認定に係る評価基準

<学位授与の方針>

本学の卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定します。

1. 教育課程の多面的履修を通して、基礎的な学習能力を養うとともに、人間社会と暮らしに対する関心と理解を深め、深い教養と考える力を身につけた学生。
2. 専門分野での体系的学習と、分野を超えて幅広く関心のある科目の学習を通して、現代の多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につけた学生
3. 「講義」「演習」での学びや、卒業論文等の作成を通して、専門的知識・技能の活用力、批判的思考力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、総合する力を身につけた学生。

なお、各学科のディプロマ・ポリシーは次のとおり

(英語英文学科)

以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定し、短期大学士「英語英文学」の学位を授与する。

1. 英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、幅広く深い教養を修得し、異文化や他者に対する細やかな想像力をもつ学生。
2. 実用的な英語運用能力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる能力をもつ学生。

(国際文化学科)

以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定し、短期大学士（国際文化学）の学位を授与する。

1. グローバル化の進む社会において、自国の文化を深く理解し、世界のさまざまな文化・思想・宗教などを理解することによって民族・国家による価値観の違いを認識し、受け入れることのできる力を身につけた学生。
2. 国際的な意思疎通と相互理解のため、英語に加え中国語または韓国語の語学力を身につけるとともに、異文化を背景にもつ外国人とのコミュニケーションのとり方を身につけた学生。
3. 誰でも簡単に国境を越えることのできる現代の情報化社会で働き、生活していくために必要なコンピュータによる情報収集能力、情報処理能力、自己表現能力などを身につけた学生。

(食物栄養学科)

人々の健康の保持・増進や疾病の予防・治療において、栄養のスペシャリストとしてその専門性を活かした業務を行うことができる栄養士の養成を目標にしている。

これを実現すべく、本学科が定める栄養士免許取得に必要な全単位数、または所定の卒業単位数を修得した者に、短期大学士（食物栄養学）の学位を授与する。

なお、学位の授与にあっては、以下の点も留意し、「食品・栄養・人体・疾病に関する幅広い知識を身につけ、高い倫理観と責任感をもって行動ができる人物」と認められた者に対して学位を与える。

(生活デザイン学科)

広く人間の生活に関連する事物のデザインを追究し、それらを軸とした学生への教育実施によって「ものづくり」と「智慧」を習得した「専門性を有する教養人」「教養を有する専門家」の輩出を目指している。

本学全体の卒業認定方針に加え、学科として以下の方針にもとづいて学生の卒業を認定し、短期大学士（生活デザイン学）の学位を授与する。

1. 各専修が設定した知識や技術の習得目標を達成し、「ものづくり」に関わる能力を身につけている。
2. デザインの思想や意義を理解し、創造的な解決を導き出す「智慧」にもとづいて、社会生活における諸課題に取り組む姿勢を身に付けている。

(国際コミュニケーション学科)

国際コミュニケーション学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根ざした実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら、協働してよりよい地域社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野を現代社会、文化交流、英語、東アジア言語の4領域とし、領域を横断しながら学びます。この目標を満たし、各領域の定める力や姿勢を身につけた人材に対し、「短期大学士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与します。

・現代社会領域

地域や世界が抱える諸課題の解決や、地域や世界の持続的な発展のための行動に必要な知識とスキルを身につけ、活用することができる。

・文化交流領域

さまざまな国や地域の文化や価値観に対する知識と、それを尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションの場で中心的な役割を果たすことができる。

・英語領域

世界共通語とされる英語の実践力を身につけ、さまざまな情報や自らの意見を、国際的な場面や地域社会に向けて発信することができる。

・東アジア言語領域

隣国であり人的往来が最も多い中国、韓国の言語や日本語を、国内外でのコミュニケーションのために使用し、観光や外国人支援などの場で中心的な役割を果たすことができる。  
(健康栄養学科)

健康栄養学科は、厚生労働大臣から認可を受けた栄養士養成課程であり、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、社会の要請に沿った質の高い栄養士の人材育成を目指します。医療・福祉領域、食環境領域の2領域とし、次に掲げる資質・能力を身につけた人材に対して、「短期大学士（健康栄養学）」の学位を授与します。

1. 栄養士の役割を理解し、高い倫理観と強い責任感・使命感をもって、行動できる
2. 「健康・栄養・食」に関わる課題に対して、専門的知識および技術をもって、解決方法を探究できる
3. 豊かな人間性をもって、他者と円滑なコミュニケーションができる
4. 栄養の専門家として、生涯にわたり自律的に学び自己研鑽できる

・医療・福祉領域

少子・超高齢社会の現代において、生活習慣病者や要介護者が増加し、同時に国民医療費が増大している。これらの諸問題の解決に必要な知識とスキルを持っている。

・食環境領域

地域の食環境を活かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献するための発信力を持っている。

(デザイン環境学科)

デザイン環境学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野をファッション、建築・インテリア、ヴィジュアルの3領域とし、領域を横断しながら学ぶことを教育目標とします。この目標を満たし、各領域の定める具体的資質を身につけた人材に対し、「短期大学士（デザイン環境学）」の学位を授与します。

・ファッション領域

高品質な素材縫製技術による「本物志向」の教育を通して持続可能なファッション文化の実現を目標に、地域の繊維産業と連携しながら素材・製造・販売までの実践的な能力を身につける。

・建築・インテリア領域

自然環境との共生を再認識し、産官学連携による実践的な地域活動に積極的に取り組む中で、持続性のある建築・地域づくりに貢献する。

・ヴィジュアル・情報領域

ビジュアルコミュニケーションを効果的に学修するため、従来の視覚情報について学ぶとともに、現代社会に適した情報科学を学び、創造的な取り組みを実践する。

<卒業要件>（学則第31条及び32条に記載）

卒業のためには、2年以上在学し、教養教育科目15単位以上、専門教育科目48単位以上を習得しなければならない。

<卒業判定>

学長が教授会の意見を聞いて判定する。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	英語英文学科	63 単位	有・無	あり
	国際文化学科	63 単位	有・無	あり
	食物栄養学科	63 単位	有・無	あり
	生活デザイン学科	63 単位	有・無	あり
	国際コミュニケーション学科	63 単位	有・無	あり
	健康栄養学科	63 単位	有・無	あり
	デザイン環境学科	63 単位	有・無	あり
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページに掲載 <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/campus_life/about_class/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/campus_life/about_class/</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：学生に各授業の理解度、授業の評価等を問う授業アンケートを実施し、結果は各教員に配付するほか、図書館に置いている。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学生便覧及び本学ホームページ  
<https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/institution>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	英語英文学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	円	
	国際文化学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	円	
	食物栄養学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	(調理実習費) 20,000 円	
	生活デザイン 学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	円	
	国際コミュニ ケーション学 科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	円	
	健康栄養学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	(調理実習費) 20,000 円	
	デザイン環境 学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) クラス担任教員のオフィスアワーにおける相談を主に、学生ごとの事情を踏まえて事務局と連携しつつ支援を行っている。 経済的支援としては、奨学金担当職員による相談や授業料の減免・徴収猶予等の相談を受け付けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路支援委員会教職員による相談・推薦者選抜業務や、キャリア支援室の企画による学内での就職ガイダンス、進学・編入学支援情報の提供等を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) クラス担任教員のオフィスアワーにおける相談の他、保健担当嘱託職員による支援、健康相談医(女性)、臨床心理士(女性)カウンセリングを実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ、研究紀要、リポジトリに掲載 <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/education_research/activities/">https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/education_research/activities/</a> <a href="https://www.gifu-cwc.ac.jp/tosyo/kiyo/index.html">https://www.gifu-cwc.ac.jp/tosyo/kiyo/index.html</a>
---